



技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター冬季号<第26号>(平成7年12月15日発行)

◇巻頭言

学歴社会から資格社会へ

新垣精一 (宮崎・建設 センター副会長)

先日、慰安旅行ついでに福岡でクラス会をやったのですが、集まったほとんどの人が転職しているのに驚きました。帰って名簿調べましたら50%の人が卒業して30年の間に職場を代えておりました。今はやりのリストラのせいでしょうか。終身雇用の影がうすれて雇用の流動化が進んでいるということでしょうか。

たまたま、「東大41年卒」という本が手元にあるのですが、東大卒の場合、転職したのが30%でした。東大卒も例外ではなかったようです。もう一つ、その本で気になりましたのは、「これから社会で東大卒ということが有利になると思うか」という問い合わせに対して、60%の人が「有利とは思わない」と答えていたことでした。

日本は学歴社会と言われてきました。一流企業に就職したり、高級官僚になるには一流大学を出てなければいけない。だから、受験戦争が激しいのだと。しかし、最近では、一流企業でも学歴や中途採用にこだわらず、実力本位で採用する企業が増えてきました。東大卒という肩書きだけでは通用しなくなっているようです。

ところで、隣の韓国は典型的な学歴社会といわれています。大卒と中卒の給料が9倍も違うようです。だからより高い学歴を求めて受験地獄は日本以上だと言われています。日本の場合、大卒と中卒の給料はたった1.5倍程度なのです。特に、日本の女性の場合、大卒と高卒の給料差はほとんどない上に、逆に大卒は敬遠されたりするぐらいのものです。

アメリカの場合、実力主義社会と言われ資格先進国でもありますが、医者や弁護士に関する限り学歴社会と言われています。出身大学やその成績によって初任給からして違うようです。但し、日本の学歴社会はロクに勉強もしないでトコロテン式に押し出された大学の肩書きだけですが、アメリカの学歴は激しい競争の中で勝ち残った者のみに与えられたパスポートであり、その品質はしっかりしていると言われています。

さて、日本は学歴社会から実力社会に代わりつつあります。又、同時にゼネラリスト社会からスペシャリストが認知され評価される社会に代わろうとしていることもあります。実力主義社会とは、ゼネラリストよりスペシャリストが評価され、また学歴より資格が重視される社会ということもあります。

日本は、長い間ムラ社会つまり共同体という調和の世界で生きてきました。そのせいで、ゼネラリスト志向の社会であり、スペシャリストにとっては長い間認知されず、肩身の狭い社会でした。企業に入社しても、配置転換で職種が変わることは常識で、専門的なことよりも、バランスのとれたゼネラリストとして育てられてきました。

しかし、厳しい経営環境に対応して技術力優位の実力主義社会が到来したことによって、スペシャリストが評価され見直される時代になってきたのです。企業においても学歴や中途採用にこ

1人でも多くの入会をお勧め下さい

(巻頭言 つづき)

だわらず、創造力と個性に富んだ優秀な人材を求めるようになり、それにつれて雇用の流動化も促進されてきました。このように新卒者を採用し育てるというより即戦力のスペシャリストを求めるようになってくると、「学歴」よりも「資格」の方が客観的に評価されるようになりました。

これからは、社会的評価の高い「資格」を取ることで学歴評価からも脱出でき、好・不好の波にも影響されず、特に転職に際してはその威力が発揮されるはずです。実力主義社会においては、「学歴」にかわって「資格」がパスポートになってきたのです。

† 私の提言

「世の人々に技術士を知っていたくために」

辻 幸英 (福岡・建設)

建設コンサルタントに入社した十数年前、協会主催の合同入社式で、「歐米ではConsultantはDoctorやProfessorと並び称せられる職業である。」という講話を拝聴し、大変勇気づけられた。

我が国ではConsultantに相当する職業を認定するのが技術士制度だと信じているが、技術士の資格を取得して5年、理想とするConsultantとのギャップが大きく、医者・大学教授と同等の評価が得られているとは思えない。

技術士の地位向上のため、個人、会社、技術士会の役割について考えてみた。

1. 個人の役割

技術士として対応する相手に対し、積極的にアピールする。技術的にはもちろんのこと、社会的・人間的にも「技術士はすごい」と思ってもらえるよう努力する。専門外の主任技術者として設計協議に参加し、不意の質問に

うろたえているようでは、技術士の地位を下げてしまう。専門外であることを述べたうえで、毅然とした態度で解決方法の提案を行う。

2. 会社の役割

建設コンサルタントにおいては契約制度の見直しにより、管理技術者・照査技術者・主任技術者は、技術士同等の技術者が担当するよう明記されていることが多くなっている。このような、業務の責任をとる立場の技術者に対して明確な基準づくりが必要だと考える。技術士に技術士会への入会を義務づけている企業もあるよう聞いている。

3. 技術士の役割

広報のための新聞広告案を作成し、全技術士に対して広告費の賛助を要請する。例えば、2万人から1万円ずつ集めたとすると、2億円という大きな予算になり、派手な宣伝ができると思う。

日本技術士会近況

◎平成7年度第4回 理事会報告

理事 原井束男

日時 平成7年11月15日(水)12:30~16:00

場所 (社)日本技術士会会議室

○審議事項

- 1. 広報委員会委員の退任について(1名)
- 2. 事業委員会委員の追加委嘱について
- 3. 地球環境技術調査委員会委員の追加委嘱について(2名)

以上の内、事業委員の追加は、第23回全(次ページにつづく)

(本部近況 つづき)

国大会実行委員の委嘱であり、総勢25名を追加承認した

○報告事項

1. 平成7年度技術士第二次試験筆記試験合格者数(科目別)

受験者数	13,401名
合格者数	2,270名
合格率	16.9%

尚、口頭試験は、11月25日～12月10日
合格発表 平成8年2月2日(予定)

2. 平成7年度技術士第一次試験受験者数

全国	4,284名
福岡	326名
受験率 全国	68.8%
福岡	68.9%

合格発表 12月20日(予定)

3. 第25回日韓技術士会議結果報告

4. 地方公共団体職員と技術士との合同セミナー

○平成7年度第2回 支部長会議報告

支部長 水上信照

日時：平成7年11月17日(金) 14:30～17:00

場所：広島プリンスホテル(広島市)

担当：中四国支部

議題と内容

- 各支部の運営経費について(継続審議分)
- 役員選挙制度改正と組織論について
- 本部部会長、常設委員会委員長との合同会議の必要性について
- 支部長会議のあり方について
- 技術士本試験事務、同登録事務の改善と技術士会入会について
- 支部長会議、地方公共団体職員との合同セミナー、全国大会、業績発表研究会、日韓合同会議等の各支部分担実施長期計画について

以上の議題に対し、討議、意見交換を行った。

内容

- 各支部の必要経費は、13,000円～19,000円である。事務所賃借料、事務長等の給料等は支部長所属の会社負担となってい

る。
本部専務より、交付金の増額は現状では無理との報告あり、各支部は魅力ある技術士会を目指に、今後共会員増強に努め

ナ一結果報告

(近畿支部・九州支部より報告した)

5. 常設委員会等報告(主たる委員会)

政策委員会=選挙制度について引き続き検討する。

涉外委員会の位置づけについて検討する。

事業委員会=来年度の支部・部会別事業計画アンケート調査結果を集計中である。12月初旬に成案予定。

その他委員会より報告がなされたが、内部運営事項であったので割愛する。

○支部選出理事の会合について

今後、支部の運営や活動に対し、支部選出理事が一丸となって支援していく態勢造りについて協議した。

引き続き回を重ね成果が揚げる活動することで意見一致した。

ることを確認した。

2. 支部長会議を単なる審議機関に止めず、

本部理事会に如何に反映させるか討議を行い、結論としては、支部選出の理事、理事、支部長兼任者等と連携協力して行くこととした。

3. 支部長会議が本部(年1回)で行われる時に、本部の常設委員長との合同会議を行う。尚部会長については、必要性を認めない。

5. 提案理由の説明のみで、討議は次回に継続審議とする。

6. 支部会議 平成7年度第1回：九州。第2回：中四国、第3回：近畿。

合同セミナー 平成7年度：九州、東北、近畿。平成8年度：中部、北海道、北陸。

全国大会 平成7年度：北海道、平成8年度：本部(神奈川)、平成9年度：九州、平成10年度：北陸、平成11年度：中四国

日韓合同会議 平成6年度：北海道、平成8年度：中四国(11月14日)、平成10年度：千葉県技術士会

研究業績発表会 平成7年度：中四国、平成8年度：近畿

7. その他

北陸支部よりPLに関する鑑定案件の報(次ページにつづく)

(本部近況 つづき)

酬額について議題が出された。圧力鍋の噴出火傷事故（処理日数は2.5日）の費用算出の日額は技術士報酬日額とすること／

が適當だと結論が出された。

尚本部でも照会案件が数件あり、1件当たり10万円～40万円であったとの報告があった。

以上

技術士会九州支部・九州地方技術士センター 行事・会合などの報告

“第8回 九州地域の官公庁職員と技術士との合同セミナー”開催報告

城石 高彌（長崎県技術士会代表幹事）

（社）日本技術士会九州支部では技術士の地域活動の一環として、毎年九州各県持ち回りで「官公庁職員と技術士との合同セミナー」を実施して、技術の交流と向上を図ってきました。

今回で8回目を数え、今年は長崎県技術士会が担当で、長崎厚生年金会館を会場にして11月10日～11日の2日間に亘り開催しました。

10日はセミナー、11日は雲仙噴火災害現地見学会を行いました。

今回のセミナーでは、地方にいる技術士がそれぞれ自分の技術を生かし、さらに官公庁職員の方々との交流をはかりながら地方に貢献している実態をお知らせし、意見交換をすることに力点をおきました。

（次ページにつづく）



(支部・センター 行事報告 つづき)

参加者は官公庁59名、企業関係51名、学生他18名、及び日本技術士会保坂専務理事をはじめとして九州各県の技術士101名計229名の多数に達し、懇親会にも115名の方が参加して下さり、盛大にセミナーを終了することができました。

セミナーのテーマは「水問題の新たな展開について」、基調講演は芝浦工業大学教授(東京大学名誉教授)高橋裕(ゆか)先生に「水問題について」をお願いして、貴重なお話を拝聴しました。

その内容項目は、94年西日本渇水の問題点、渇水問題を解決する方策、21世紀、世界の水問題、最近の世界各地の大水害とその課題についてでした。

その後、長崎大学工学部教授高橋和雄先生にコーディネーターをお願いして、官公庁側4名、技術士側11名のパネリストによって“ソアラーと風力”から“水辺環境”まで11テーマについてディスカッションを行い、最後に“雲仙火山災害について”吉田強技術士の報告でセミナーをしめくくっていただきました。

以上

平成7年度技術士第二次試験筆記試験合格者
平成7年11月1日発表 福岡試験場

機械	高橋孝誠	建設	渡邊輝康	建設	山下 篤
"	古賀良知	"	永嶋洋政	"	安部邦弘
"	綾部武二	"	佐藤光雄	"	今林顯二
"	阿部隆一	"	住田賢二	"	河野敏郎
"	秦野 徹	"	山田益司	"	坂口信夫
"	岸川直人	"	平野 巖	"	安恒万記
船舶	千葉規胤	"	青木数行	"	児玉隆昌
電気	小野哲男	"	廣中宏毅	"	松尾眞治
"	小池勝也	"	野本克己	"	佐々木實
"	田代明敏	"	谷川一智	"	木津博幸
"	中田陽道	"	石塚健一	"	梁田信河
化学	篠崎武樹	"	油野邦弘	"	末廣孝義
"	田越宏孝	"	手嶋和男	"	森田昭廣
輿論	古川智彦	"	伊澤 亮	"	川上義幸
"	吉良信輝	"	橋本 晃	"	桑原洋一
建設	黒川陽一	"	堀口 潔	"	山本祐司
"	石井賢治	"	秋月敏政	"	宮崎正和
"	中尾好幸	"	角 和夫	"	太田達雄

／建設	松浦元哉	建設	末永晃一	建設	寺田彰憲
"	鶴田芳昭	"	立石亮祐	"	大和敏郎
"	福山俊夫	"	兼武征一郎	"	吉田直紹
"	吉田 靖	"	石橋佳三	"	鶴岡達夫
"	安部義美	"	高原茂樹	"	大矢隆二
"	香月龍幸	"	瀬戸口忠臣	"	村上 健
"	小川 健	"	田中 充	"	井上貴義
"	浅田 透	"	中野剛一	"	田中昭二
"	野口文雄	"	斎田 謙	"	松崎 明
"	溝刃 哲	"	勝山 修	"	入江睦生
"	前川文誓	"	水田富久	"	鳥井秀章
"	馬越 哲	"	菅原信二	"	勇 秀忠
"	坂田道則	"	田中秀明	"	梅田清春
"	釜下英己	"	夏秋政則	"	神崎 潔
"	甲斐良徳	"	中村 稔	"	太田順一郎
"	中禮清孝	"	川原伸孝	"	高倉和彥
"	森山隆徳	"	森 弘光	"	森 茂毅
"	岩屋信一郎	"	本山彰彦	"	岩本政志
"	右田隆雄	"	浅利公博	"	中山義彦
"	竹上哲夫	"	山本浩史	"	宮本好英

建設	瀬知昭彦	水道	岩橋英夫	農業	富宿一隆
"	高橋宏之	"	藤野恭裕	"	上尾清光
"	富永英治	"	渡辺康之	"	正岡幸雄
"	坂田隆博	"	瓜生 滋	"	長嶋秀昭
"	土井 候	"	古橋裕二	"	菊池秀城
"	田村博通	"	山下 きれ	"	溝口昌廣
"	小野 透	"	大櫃宣弘	"	花木幸雄
"	西村和一朗	"	金谷利憲	"	福田光博
"	高瀬和博	"	中原敏文	"	木村麟太郎
"	是枝伸和	建築	清水 清	"	小柳文人
"	田中克則	"	川村 靖	"	城島義秀
水道	小川正則	農業	田中興基	"	池上泰俊

／農業	佐藤 隆	林業	二見鎌次郎	環境	平野實夫
"	浦島和衛	"	福重治雄	"	松永雄二
／林業	栗山 隆	"	野村眞二	"	水野 仁
"	国平好明	環境	鵜田洋行	"	林 秀樹
"	受験申込者		湯原浩三	"	足立高行
"	受験者数		齋藤信弘	"	原千砂子
"	筆記試験合格者数		1, 886名		
"	・建設		1, 127名		
"	・建設以外		58名		
"	・計		168名		

／ 第22回 全国大会参加記 ／

久保田 信一（福岡：建設、農業）

札幌で9月6日に開催された標題大会へ参加して来ました。参加者は400名近くで九州からも17名を数え、北海道だけで160名に達することへ最初に驚かされました。業務多忙で参加をためらっていた自分は直前になりくりがついて申し込んだのですが、行って良かったと想いを強く抱いています。

札幌後楽園ホテルにおける「く・ら・しと技術」をテーマとした大会当日は、午前中が分科会4つと特別分科会を設けての講演が行われ、午後には記念式典から記念講演に続いて懇親会が催され、全室が満席状態で盛会に評価されました。大会前日には見学会や懇親ゴルフコンペも賑わった様子に聞かされる他方で当支部友との小旅行を楽しんだ後、自分は夜の建設部会全国交流会へ飛び入り参加を許され、70名程と懇親を深めたものです。

部会受付のロビーでの出来事を、次には紹介します。東京大会における懇親パーティ会場では後ろから肩を叩いて声をかけられた、時の科技庁長官宮崎茂一先生から、会長として御出席の今回では喫煙席へ寄って来られ、隣椅子に腰掛けて話しかけられました。

「部会は全部でいくつかね？」

「全技術部門19の内、現在17が部会を組織しており、環境部会が発足準備の段階にあるようです。」

「ここに第2回と書いてあるんだが、どういうことかね？」

「建設部会は、昨年全国大会で最初の全国交流会を行っております。」

「他の部会もそうなのかね？」

「全部の部会は知りませんが、農業部会などでは今年が5回目です。」

「そうなのか。建設部会はどうして遅れているのだろうね？」

一瞬考えた後、「技術士会全会員の半数以上を建設部会員が占めておりまして、大所帯はどうもまとまりが良くないように思われます。今の自民党と同じではないのでしょうか。」

私の独断ではありますが。」

「そうかもな……。ウン！」

……………

等と色々続いた後、こちらから伺った。

「お願いがあるのですが……？」

「何でも引き受けられるものじゃないがね。何かな？」

「再来年の全国大会が宮崎先生ご出身の九州で開催予定なものですから、こちらも是非ご出席頂きたいのです。」

「自分は忙しくてね、約束はできんのだよ。総裁選が1人にまとまったから今回は時間がとれた次第で。」

等に続き、春の会長就任時の経緯まで聞かせて貰いました。後で理解されたのですが、会長挨拶の材料収集の質問だったのです。

「…………大所帯だから困難と言わずに、部会員全員が一丸となって技術の向上と部会の発展に…………」

との部会交流会冒頭での挨拶弁に、また、「…………全部会が一致団結して技術士会と会員の発展、及び……」

との大会当日記念式典での式辞の弁に出ており、自分の答弁が会長の挨拶へ役立った想いから実に感動したものです。加えて親しみを覚える人柄が、東京大会時に抱いた個人的想いよりも一層強まった次第でした。

分科会開始前には、この発表のために資料工作へ1カ月を費やしたとの某先生から、

「執念こそが技術の原点だと考える。キチガイになれにゃ、本物じゃない。あなたはどう思いますか？」

との語りかけから始る技術論議の2者談話に数名が集り寄って来て討論へ発展した30分間を楽しんだうえ、午後の記念式典後の記念講演では目頭を熱くさせられました。作曲家第一人者に聞かされる森田公一先生が、

「街づくりを皆さんに技術でされておられるが、自分は歌でやっている。」

と言う挨拶から始められ、解説を挟んだ自己曲を追ってのキーボード弾き語り式に綴られた記念講演では、広い会場室全体が静謐の極に達して歌声のみが壁に染み込む様へ化し

（次ページにつづく）

(支部・センター 行事報告 つづき)
ました。最終曲直前の歌で“青春時代”的、

「・・・・・・・・・・・・

青春時代のまん中で
道に迷っているばかり」

を聴いた参加者達は首を縦に振るばかりに勢揃いし、ハンカチを目に当てる人も現れ、純朴な情熱家へ受け取られてからの最終曲で

「・・・・・・・・・・・・

男になりたい 故郷がほしい
・・・・・・・・・・・・」

を耳にする頃には感奮した息遣いで会場全体の空気が染まったものです。目の潤んだ人の列となった室出口が、小声一つ聞こえない／

／静寂なままの内にドアを閉じられました。

大会翌日から3種に分けて開催の研修旅行には日帰り組へ参加して北海道のセンターが入会率90%台後半を示すとの教えに驚いたうえ、その秘訣を尋ねて会運営方法へ驚嘆したまで帰りの搭乗者となりました。最初から最後まで感激の連続だったのですが、盗み撮りや写して貰った写真の郵送を後日に多く受け、帰宅してからも感銘しております。

九州の多くの会友へ、全国大会に参加されたら如何かとお勧めしたい想いあります。

／ 第25回 日韓技術士会議に参加して ／

甲斐 忠義（事業委員長 福岡・建設）

第25回日韓技術士会議が去る10月27日韓国慶洲市慶洲コーロンホテルで開催されました。総出席者数は124名で内訳は、韓国66名、日本58名（うち九州支部は水上支部長外13名）でした。

会議では、まず開会辞を韓国技術士会常任理事の金柱垣氏が挨拶、次いで日本技術士会を代表して鈴木清団長に代わり、保坂彬夫（社）日本技術士会専務理事が挨拶された。次いで合同シンポジウムとなり日韓産業構造に関する調査研究委員会の日本側委員長の松平孝氏の基調報告と両国の合同討論会として、韓国の伊氏が韓国の干拓技術について日本の中山氏が中国辺境地域開発の現状と日韓技術士の協力展望と題して発表があった。

午後は分科会討論会に移り、第1分科会として防災関連、第2分科会として安全関連、第3分科会として地域計画環境、第4分科会として品質食品関連に分かれて、各専門技術士がグループ化して研究発表と討論を行った。分科会は、17:30分まで続けられ18:20分から韓国側主催のレセプションが開かれた。

レセプションでは、冒頭開催地慶洲市長の歓迎の挨拶があった。慶洲市は現在人口30万人の都市であるが、新羅王朝1千年の古都で既に1000年前に100万人の人口があった／

／という。

市の殆どの区域が、韓国政府の観光特区として指定されユネスコの世界遺産地域にも指定されており、日本の奈良市、小浜市、宇佐市等と姉妹都市を結んでいる。

慶洲市の主な見所は、新羅時代の535年創設された禅宗寺院の仏国寺や、新羅王陵の巨大な円墳の並ぶ古墳公園である。晩餐会には、韓国技術士先生方の御婦人も多数出席され、御夫人方の色とりどりのチマチョゴリは会場を一際明るくしていたように思えた。

九州支部有志の参加者は当会議を目的とした外、慶尚南道の史跡観光を行った。主な観光地点は晋州域や海印寺であった。新羅王朝の歴史遺産や壬申の乱、朝鮮出兵と韓国の歴史的事実など、見聞するところ大なるものがある。

次回は、日本側主催で島根県松江市で来年開催される予定である日本技術士会が、アジアのため世界のために専門分野で更に研鑽を積み上げることは、今後益々重要なことであり、来年の松江会議出席を宜しくお願ひ申し上げます。

九州支部会員出席者の皆様方に於かれましては大変お疲れさまでした。

第4部会講演会報告

平成7年9月5日、第4部会の講演会及び懇親会が福岡市内において行われた。講師は日本水工設計の斎藤豊氏と福岡市役所の梁木英寿氏で、テーマは各々「周辺供給型円形沈殿池の最適形状」と、「水資源における下水道の可能性について」であった。講演終了後の懇親会では、宮崎や大分等遠方からの参加者もあり、大いに盛り上がった。以下講演の概要を紹介する。

1. 「周辺供給型円形沈殿池の最適形状」

斎藤氏は現在、日本水工設計九州事務所に勤務の傍ら、熊本大学大学院で博士号取得のための研究に従事しておられ、その研究成果の一部を講演された。

沈殿池を研究テーマとした理由として、近年のOD法では沈殿池の面積が大きく、用地ができるだけ狭くしたいという要望がきっかけになったとのことであった。

内容としては、現在円形沈殿池で一般的に

佐々木 安治(福岡・水道)

行なわれている中央供給型よりも、周辺供給型のほうが沈降効率も良く、水面積も小さくて済むというもので、詳細な実験結果を基に話をしていただいた。

2. 「水資源における下水道の可能性について」

梁木氏は福岡市総務局水資源対策担当に所属され、福岡市の水対策の最前線で活躍しておられる。講演は福岡市の渴水事例や、水対策等を紹介していただきながら、今後の方向性やその問題点を話していただいた。

将来の水資源対策としては、ダム開発、雨水利用、海水淡水化、下水処理水再利用があること。これらの採用にあたっては、コストの比較検討が重要であるが、処理水再利用の内特に上水への再利用では安全性の十分な検証が必要であること等が主な内容であった。

処理水再利用施設の計画設計を、日常業務とする者として大変有意義な講演であった。

技術研修会に参加して

日野 健次(福岡・建設)

秋の技術研修会は、9月22・23日に参加17名で、九州電力八丁原地熱発電所及び大分自動車道のハイピア（横道橋）の2箇所を、関係者の協力により無事終了した。九重町の雄大なる自然を満喫するはずであったが、台風の影響で駆け足の視察となったものの、自然への融和に配慮した土木構造物について、新たな感動を味わえた研修であった。

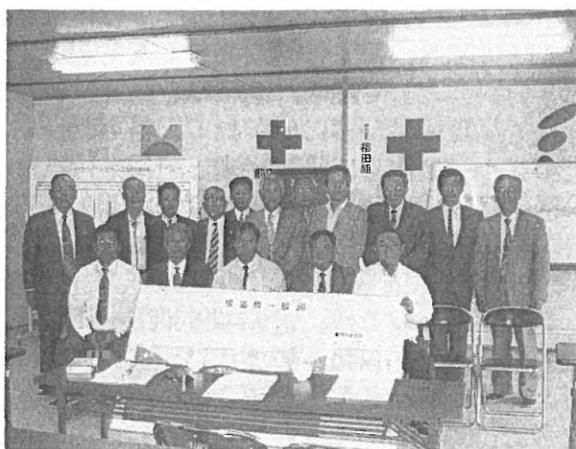
別府・島原を結ぶ地帯では、地殻が南北に引っ張られている正断層による陥没地帯の形成によって、マグマが地熱温泉地帯を出現させたとの説明を聞き、雄大なる自然の恩恵を実感させられた。

地熱エネルギーの熱源は、プレートの移動による摩擦熱で生じたマグマ溜りの熱水である。このマグマ溜りでは、地中に浸透した天水が230~280°Cに加熱させられたもので、蒸気井($\phi=200\sim500\text{mm}$, $L=758\sim2,120\text{m}$, $n=24$ 本)で2台の発電機を運転しており、総出力は11万kWである。熱温度が火力発電源

より低温であるため、発電効率では劣る。しかし、燃料が不要で半永久的に使用できることや、クリーン(CO_2 が発生しない)であるなどの長所も多く、わが国では貴重なエネルギーであるので、将来の発展に期待したい。

横道橋では鋼管・コンクリート複合構造橋脚の省力化及び経済性について興味深い説明

< 次ページにつづく >



を聞いた。昨今の耐震性への配慮から将来性のある技術であるとの感慨を得た。当初のコンセプトでは省力化を第一にし、在来工法に比べて30%程度の後期短縮が図れた半面、経済性では帶鉄筋にPCストランドを使用していることなどもあって、4~7%高価になる、

が、力仕事のない省施工に配慮した工法で、将来の第二東名自動車道の建設を十分に意識できると実感した。そのためには、今回の40mを基に、60~100mへ、さらなる研究により実績を蓄積していくことを期待したい。

以上

第1部会 技術研修会報告

山谷 三郎（第一部会長・福岡・機械）

平成7年9月30日(土)、13時30分より17時まで、福岡商工会議所地下会議室にて、当日13名の参加者を得て第1部会技術相互研修会を開催しました。会議室は広々として数十名が楽々入室でき、また、ビデオ、OHP装置等完備した立派な部屋構成でした。

問題提起がありました。2番目のテーマは、電気誘導加熱エッジヒーター特性の有効利用法について。3番目のテーマは、TVブラウン管の自動仕分け、箱詰め、梱包ラインに関するロボット活用、多品種生産対応コンベヤー主体・物流システムのVTR説明でした。

まず最初の講演議題は、(1)「我が国貿易港の課題」阪神大震災によるコンテナクレーンの破損状況、(2)「電気磁気エネルギー技術開発関連」、(3)「FA(ファクトリーオートメーション)技術の開発・実用化関連」の3テーマについて、電気部門・山丸(株)所属の泉館昭雄先生がありました。

その1番目のテーマでは、阪神大地震によるコンテナクレーンを支える鋼鉄製大支柱が座屈現象にて折れていることで、震動揺れの凄まじさと、対する機械構造物の脆弱さを見せつけられました。更に神戸港復興の在り方について、国際物流拠点として隣国状況をふまえての今後のサービス、コスト等の

第2の講演議題は、「工作機械・工具加工技術の変遷と未来展望」について山谷が行いました。その要旨は、我が国戦後の脆弱な工作機械と工具(マシンツール)による切削・研削・研磨加工技術を、今日に見る多品種変量生産に対応できる自動化NC(数値制御)工作機械の代表であるMC(マシニングセンター)、TC(ターニングセンター)による複合総合加工技術とそのトータルシステムであるFMS、FMC更にCIMへの発展過程と、超精密加工技術を説明しました。

報告会後、近くの炉端焼き店で和やかさと談笑の中に懇親会を持ちました。

以上

平成7年度第3部会第1回例会

北原 徳雄(第3部会長・北九州・化学)

平成7年10月21日、14時より博多第一ホテルにおいて、部会員7名の参加により例会を行った。議題は下記の如し。

1. 会員諸氏の近況、その他
2. 韓国での接着剤製造指導概要について

北原 徳雄(化学)

上記例会終了後、同ホテルにおいて懇親会を行った。なお、2項の研修概要は次の通り。

- (1) OB技術者の派遣事業について

韓国中小企業振興公団(ソウル市)の要請により北九州国際技術協力協会(KITA)にて韓国の中小企業を対象に、OB技術者に、

による技術支援が計画され、実施のはこびとなった。

韓国の中企業9社より技術指導の要望があり事前調査が行われ、それぞれの企業宛OB担当者が決定した。(但し5社に限定)

今回は日程のずれ込みで第1回の予備調査終了の段階であるので、今後の韓国接着剤製造業者への指導予定の中から2つのテーマを選び研修内容とした。

- (2) 建材、住設用ポリウレタン接着剤
ポリウレタン接着剤は基本的にはイソシア
< 次ページにつづく >

ネート原料と、分子内に活性水素基を有する各種材料とから成る。イソシアネート基の種々の基本反応を利用して、プレポリマー化や高分子化して、無溶媒、溶剤型あるいは水性化した弾性体から非弾性体まで多様な接着設計が可能である。

(3) SGA (第2世代アクリル接着剤、またはハネムーン接着剤)

アクリルモノマーをレドックス触媒系により重合させ、モノマー中に溶解しているエラストマーにグラフト重合させることにより硬化させる接着剤である。

次回例会は平成8年1月27日14時より博多第1ホテルで本田整氏(金属)の技術講演「材料屋がみたバルブについて」を予定しております。

— 第1部会研修見学会報告 —

名村造船伊万里事業所研修見学と秘窯の里伊万里大川内山の窯元見学

田中 正人 (第1部会幹事・福岡・機械)

第1部会にて開催の研修見学会は毎年日帰りでしたが、今回は1泊2日で計画し、時期も晩秋の11月17日~18日といたしました。

(株)名村造船伊万里事業所見学(17日)

12時、筑肥線伊万里駅にて14名集合、先方で手配戴いたバスで1時過ぎに出発、山谷部会長よりバスの中で先方の副事業所長松岡義一取締役を紹介され、名村造船の現状を説明して戴き、20分後、伊万里市黒川町にある名村造船事務所玄関に到着。

バスに同乗したまま事業所内を見学。NC切断機が多く動いている切断工場→曲加工場→組立工場→塗装工場→製品置場→組立場→建造ドックNo1, No2(長さ450m, 幅70m, 深さ11.5m) 現在、渠内で104,900 KT×2艘が建造されつつありました。繫船岸壁の東側には167,000KT(BULK)、西側には105,000KT(CRUISE OIL)の船が進水しておりました。(西側タンカーSEABRIDGE写真)

松岡副事業所長より資料に基づいて最近の造船業の実情説明と見学者との活発な質疑応答が行われ、非常に活気ある受注、竣工の実情を知ることができました。午後3時すぎバスにて伊万里駅経由宿泊先である伊万里市

二里町の佐賀厚生年金休暇センターに到着、ゆっくり温泉風呂でも浴びて浴衣着で一杯傾けながら会食いたしました。

秘窯の里大川内山窯元見学(18日)

9時、佐賀厚生年金休暇センターのマイクロバスで出発約18分で大川内山到着、伊万里焼伝統産業会館にて予め説明をお願いしておりました館長の宝蔵寺源九郎様より、鍋島藩窯として300有余年の歴史を誇る伊万里焼の伝統について熱心な説明があり、見学者にとって人生の勉強になるユニークな話がありました。(会館にて館長とともに見学者一同写真撮影) 三方山に囲まれた秘境ムードあふれる大川内山、別名“秘窯の里”にてそれぞれ焼物をお土産に購入された方も多く唐津経由帰途につきました。

紅葉の季節、自然の美しさと伝統ある伊万里焼の鑑賞と共に好天気に恵まれた2日間の研修見学会でした。参加者16名日帰り4名、江崎(金属)、矢野(建設)両先生を始め他部会員の方達もご参加戴いてありがとうございました。また、(株)名村造船の見学手配にご尽力賜りました松尾(機械)先生始め関係各位様に厚くお礼申し上げます。



矢野 友厚(センター副会長・福岡・建設)

ナポリ・ポンペイ

<ナポリ>

ローマの南東約200km、イタリア第3の都市で人口約121万人、市街地はポンペイと同じくヴェスビオ火山からの肥沃な傾斜地に立地し、地域は亜熱帯なオレンジ並木が連なる砂浜海岸に恵まれ、海は、背後にヴェスビオの影を落として、地中海で最も美しい風景とされ、

“ナポリを見ずして死ぬなけれ”の諺がある位有名であるが、実際は少しオーバーな表現と感じたが、それでも観光地の風格がある。

(写真・5 ナポリの町と火山)

○ 王宮とG7

中世の1600年、スペイン治世下に作られたナポリ王・ブルボン家の王宮である。広場に面してナポリ諸王朝の初代王の彫像が並んでいる。先進国首脳会議G7に出席した村山首相が会議した所で、近くに同氏が緊張の余り体調を壊して入院した病院がある。

○ サンタルチアと卵城

イタリアのナポリ民謡として歌われる小歌曲で、19世紀の半ばころナポリの民謡祭で選ばれた。題名はナポリを守護する聖女ルチアを意味するが、これが地名にも定着し、元は貧しい漁村がすっかり近代建物が並ぶ地となっている。近くの卵城はその形が卵状で、海につき出ており、原形は12世紀の作という。

<ポンペイ>

○ ポンペイ総見

ローマから250km、ローマ帝政時代の西暦79年、ヴェスビオ火山(1274m)の大噴火で、一瞬にして灰の中に沈んだ幻の都である。見学コースは、マリーナ門→中央広場→居酒屋→パン工場→中庭の美しいヴェッティ兄弟の家→幻の大浴場と辿ったが、日本ではまだ弥生時代に、ここポンペイでは、高い生活水準と文化が進んでいたのである。2000年の懐古にしひれっ放し。テレビや車を除き人類は余り進んでいないのではないかとの錯覚すら起る。なお発掘は未だ60%という。

○ アツポンダンツア通り(写真-6)

ポンペイの道路は石畳で作られ、高さ5m近い壁は、礎石を三和土を挟んで作られている。昔の壳春宿への曲り口には男性のシンボルを彫った長さ20cm直径5cmのチンポ状石が

写真 5. ナポリの町とヴェスビオ火山



写真 6. アツポンダンツア通り



あり、普通サイズの女性なら壊されそう。

○ 当時の主食

発掘された遺物から、主食は粟、稗で、米は高級食品で病人に使われたらしい。

○ 壳春宿跡

日本の4畳半の広さの部屋跡5つがあり、その各部屋に、性交体位の壁画がある。即ち、正常位、茶臼、松葉崩し、衣被ぎ、背後位とさまざま。セックス体位は2000年前も今も進歩がないのでは? 壁画の風化を防ぐため各所で鉛が使われているという。

○ 藥局跡

蛇の圖案が入口に書かれている。蛇も貴重な薬品であったらしい。

○ 公共広場(写真-7)

三人の神、ゼウス、ヘラ、アテナ神殿広場で、138m×47mの矩形の大きさをもつ古代の町の中心広場、横に政庁や裁判所、市場等があったという。 <次ページにつづく>

○ アポロ神殿

日時計が置いてあり、また、神に捧げる犠牲台がその横にある。羊、牛、馬が使われ、儀式の後は皆で食べたという。

写真 8. ポンペイの廃墟で発掘された
絵画「毒蛇を殺すヘラクレス」



写真 7. ポンペイの公共広場廃墟

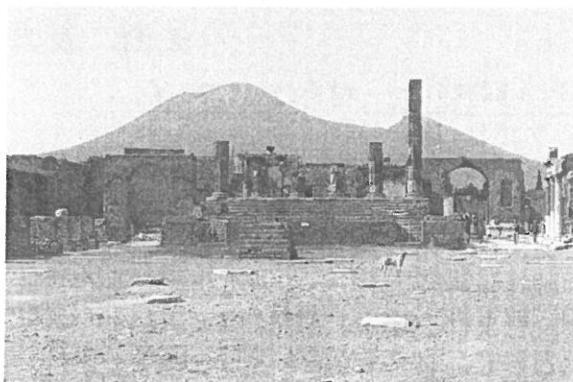


写真 9. フィレンツェの町全景



フィレンツェ覗見

ローマから約3時間、中世の建物が各所に点在する丘陵地帯をぬって、花の都を意味するフィレンツェへ着く。町全体が美術館調でルネッサンス遺産に囲まれた優雅な町である。

フィレンツェはイタリアの京都ともいわれ類のない美しい町である。その歴史は、西暦1400年以降の最盛期には、ダンテを含む3人の政治家が活躍し、トスカーナ帝国を固め、一時はイタリア全土の首都になったといわれる。ルネッサンスの真髄は、喜怒哀楽を豊かに表現した芸術の発展にあるといわれこの街にはそれが息づいている。街路樹はプラタナスが多く見られ中世の町をバックに街の形に溶け込んでいる。

○ ヴィティチ美術館（写真-10）

入場するのに3時間余、立ちん棒で待つだけであった。約1時間の見学コース。

イタリアルネッサンスの絵画コレクションとしては世界最大の美術館。西暦1581年誕生。絵画で有名作の蔵品は

- ポッティチエリ作「春」「ヴィーナスの誕生」
- レオナルド・ダ・ヴィンチ作「受胎告知」
- ミケランジェロ作「聖家族」
- ラファエロ作「ひわの聖母」

○ ジョットの鐘楼

ルネッサンスの万能のひとりジョット謹+
84m の垂直の塔からの眺望はすばらしい。

写真 10. ポッティチエリ作「ヴィーナスの誕生」
(1486年頃の作 ヴィティチ美術館内)



○ ドウオモ

正式名称聖マリア大聖堂、巨大ドームは、天才建築家ブレンレスキの手によるものである。

<おわりに>

ローマは芸術の都であり、学術の都をも兼ねており、その文化施設は軒を連ねているのには驚かされた。

なかでも、イタリア映画の特質はその国民性と深い関係があるといわれ、雄大豪華な史

<次ページにつづく>

劇映画と情熱的なロマンチック劇により代表され、この中にイタリア人の豪華趣味、オペラ趣味、悲劇好み、ロマンチズムをよく描写しているようである。

また、それを演ずるイタリア人は、美女優、大女優に恵まれ、素人でも生まれながらの俳優である同国人は、即興的演技で際立つ

たセンスをお持ちの国民性を有しているらしい。

日本人もこののようなセンスを、この何世紀の間に持ちたいものであるとの印象が旅の終わりに心に響いた鐘の音であった。

—おわり—

隨想 ~ 精神の強化書 ~

現代は、健康問題、職場の人間関係、仕事の悩み、夫婦問題、子供の教育とストレスの原因は多いものです。しかも、これらの原因是、取り除こうとしても絶対に取り除けないものです。人の口に戸は立てられないし、犬は吠えるものなのです。それと同じように、ストレスの相手は変わるものではありませんから、相手を変えようと思ってはなりません。変えなくてはならないのは、唯一つ、自分の心、思考、精神力なのです。私はストレスに強くなりたくて、いろいろ工夫して対策を考えています。

①腹式呼吸 ②気合法…シャドーBOX
③精神統一 ④最悪の事態を想定して生きる

前田 秀人（佐賀・建設）

・開き直る ⑤プラス思考をする

中でも、腹式呼吸は、ストレス解消などの精神安定以外にも、精力増進、内臓機能強化、発声など様々な効果があることも証明されており、あらゆるもの的基本として身につけるようお勧めします。（以下、複式呼吸の方法）

①リラックスして、ゆっくり大きく吐く（20~30秒）

②お腹だけで動かす

③肺の中の残気をすべて吐き出すように、息を絞り出す。

④ゆっくり吐いて、一気に吸う

腹筋をしながら、階段を登りながらやって見ましょう。



会員ニュース



☆社日本技術士会（九州支部）入会

(地区) (姓) (氏名) (技術部門)

(地区)	(姓)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先)	(勤務先・勤務先)
福岡	工	松井 章雄	建設	〒810	福岡市博多区中州5-6-20 福岡明治会館4F ☎(092)281-6321
		勤務先 三菱地所(株)九州支店			
大分	工	藤井 隆	建設	〒814	福岡市早良区西新2-5-12 ☎(092)845-9442
		黒枝 秀吉	建設	〒870	大分市寒田田園町29号 ☎(0975)68-2903
		勤務先 九州建設コンサルタント(株)☎(0975)51-6211 FAX(0975)51-3876			
		山本 浩	水産	〒879-15	大分県大速見郡日出町川崎5287-3 ☎(0977)1
		勤務先 ヤンマーディーゼル(株)☎(09786)8-0766 FAX(09786)8-1164			73-1036
福岡	工	恒松 道信	建設	〒814	福岡市早良区百道2-4-45-314 ☎(092)843
		勤務先 (株)東京建設コンサルタント九州支店☎(092)262-7311 FAX(092)262-7316			2306
		田中 康男	建設	〒815	福岡市南区若久1-6-3 ☎(092)511-1475 FAX同
		勤務先 (株)綜合技術コンサルタント☎(092)712-0624 FAX(092)751-8279			
北九州	工	安心院貴顕	建設	〒811-12	福岡県筑紫野市大字今光503-3 ☎(092)952
		勤務先 (株)三高コンサルタント☎(093)951-1615			-7398
福岡	工	吉永 辰雄	建設	〒818	福岡県筑紫野市大字筑紫667-187 ☎(092)926
		勤務先 復建調査設計(株)福岡事務所☎(092)471-8324 FAX(092)471-8328			-3584
		鶴川 義明	建設	〒838-13	福岡県朝倉郡朝倉町大庭3583 ☎(0946)52
		勤務先 (株)アイ・エヌ・エー九州支店☎(092)595-2220			-0443

—以下敬称略、受付順—

(連絡先・勤務先下段)

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会(つづき)

(地区)	(会員)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先-下段)
福岡県	菊池孝次郎	建設	勤務先(株)カミナガ	〒811-02 福岡市東区美和台1-15-8 ☎(092)607-3360 ☎(092)451-6221 FAX(092)451-4854
" "	毛利一美	衛生工学	勤務先(株)九電工	〒815 福岡市南区野間4-6-16 アミ-野間404 ☎(092)523-1231 FAX(092)524-3267
" "	皆良田征夫	金属	勤務先ラサ工業(株)羽犬塚工場	〒833 福岡県筑後市羽犬塚324-1 ☎(0942)53-7954 ☎(0942)53-6352 FAX(0942)52-7111
" "	足立俊一	建設	勤務先(株)建設技術研究所福岡支社	〒811-34 福岡県宗像市日の里8-15-3 ☎(0940)36-0537 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-5200
" "	石井栄造	建設	勤務先上記に同じ	〒814-01 福岡市城南区友丘6-20-26 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	大野重三郎	建設	勤務先上記に同じ	〒818-01 福岡県太宰府市青山1-4-10 ☎(092)714-2211 FAX(092)711-8316
" "	金昌秀	建設	勤務先上記に同じ	〒816 福岡県春日市松ヶ丘3-30 ☎(092)595-1541 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4325
" "	後藤雅之	建設	勤務先上記に同じ	〒819-11 福岡県前原市神在107-7 ☎(092)324-5463 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	是枝伸和	建設	勤務先上記に同じ	〒815 福岡市南区野多目1-8-2-210 ☎(092)511-7313 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	小林正毅	建設	勤務先上記に同じ	〒812 福岡市博多区神屋町5-23 ☎(093)271-0902 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	坂田隆博	建設	勤務先上記に同じ	〒811-11 福岡市早良区早良7-25-4 ☎(093)804-1766 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-5200
" "	武内重信	建設	勤務先上記に同じ	〒830-01 福岡県小郡市三沢4225-421 ☎(0942)75-5561 ☎(092)714-2211 FAX(092)711-8316
" "	中山比佐雄	建設	勤務先上記に同じ	〒820 福岡県嘉穂郡穂波町大字小正454-4 ☎(0948)24-1873 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	中島義明	建設	勤務先上記に同じ	〒814-01 福岡市城南区東油山2-11-7 ☎(092)863-5329 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4325
" "	秦野長次	建設	勤務先上記に同じ	〒814-01 福岡市城南区樋井川3-34-8 ☎(092)551-7688 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	松井謙二	建設	勤務先上記に同じ	〒811-32 福岡県宗像郡福間町光陽台2-24-1 ☎(0940)34-3053 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-5200
" "	矢ヶ部輝明	建設	勤務先上記に同じ	〒815 福岡市南区三宅3-20-19-301 ☎(092)552-5245 ☎(092)714-2211 FAX(092)715-4352
" "	濱弘純	建設	勤務先(株)タイヨー設計	〒818 福岡県筑紫野市大針摺539-32 ☎(092)925-0812 ☎(0942)33-5003 FAX(0942)33-5007
" "	西山紀光	衛生工学	勤務先西山紀光技術士事務所	〒819 福岡市西区愛宕浜1-6-6 ☎(092)891-7286 ☎(092)714-2211 上記に同じ
" "	加藤道人	建設	勤務先日本工営(株)福岡支店	〒819 福岡市西区石丸1-26-27 ☎(092)881-2063 ☎(092)475-7131
" "	瀧木久	建設	勤務先ダイエー建設補償コンサルタント(株)福岡支店	〒819 福岡市西区上山門1-13-23 ☎(092)881-4070 ☎(092)752-1785
大分県	瀬口宏由紀	建設	勤務先松本技術コンサルタント(株)	〒871 大分県中津市東浜768-6 ☎(0979)23-5955 ☎(0979)23-3636

☆九州地方技術士センター入会

(地区) (氏名)	(技術部門)	(連絡先・勤務先-下段)
北九州 須賀 木村 亮太	建設	〒804 北九州市戸畠区東大谷2-11-30 ☎(093)882-1 勤務先 (株)創建
宮崎 "	農業	〒880 宮崎市丸山2丁目119 ☎(0985)28-6510 勤務先 (株)国土開発コンサルタント ☎(0985)24-3334
大分 須賀 片岡裕一郎	水道	〒870-01 大分市明野高尾3-14-8 ☎(0975)53-3437 勤務先 (株)大分試験分析センター ☎(0975)53-2285

☆日本技術士会(九州支部)退会

(地区) (氏名)	(技術部門)
北九州 須賀 武田 一生	機械

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 鶴島郁之輔 (建設)

連絡先 〒815 福岡市南区長住2-16-8-502
TEL(092)541-0154

2. 渕上 健次 (電気電子)

連絡先 〒815 福岡市南区那の川2-3-7
メンドル横山8035 TEL(092)523-2647

3. 安達 秀夫 (建設)

勤務先 〒812 福岡市博多区博多駅前
3-16-10 (株)荒谷建設コンサルタント九州支社
TEL(092)441-5463 FAX(092)441-5460

4. 柴田 陽一 (建設)

勤務先 〒810 福岡市中央区今泉2-5-28
西日本設計測量(株)福岡支店
TEL FAX (092)724-7580

5. 山崎 敬太 (機械)

連絡先 〒818 筑紫野市美が丘南6-4-73
TEL(092)927-0720

6. 今村 晋作 (林業)

勤務先(社名変更) 〒814-01 福岡市城南区
茶山4-9-8 (株)建設コンサルタント ナガモト
TEL(092)865-5770

7. 飯星 次男 (電気電子)

連絡先 〒810 福岡市中央区谷1-1-3
ライオンズビル桜坂第2 801 TEL(092)733-8379
勤務先 〒810 福岡市中央区警固3-1-24
ダイダン(株)九州支社 TEL(092)771-4361

☆九州地方技術士センター退会

(地区) (氏名)	(技術部門)
-----------	--------

福岡 須賀 内田 孝	建設
北九州 須賀 松下幸之助	機械
福岡 "	槇本 裕成
中四国 須賀 佐藤 泰徳	産業機械

8. 平 信雄 (水道)

勤務先 〒810 福岡市中央区今泉2-5-28
(株)吾水総合コンサルタント
TEL(092)724-6663 FAX(092)724-7588

9. 森 将彦 (建設)

連絡先 〒838-01 小郡市寺福童701-2-214
TEL(0942)72-9219
勤務先 九州地方建設局 企画部
TEL(092)471-6331

10. 柿山 真一 (建設)

連絡先 〒818 筑紫野市原田5-2-3
ファミーユ16B202 TEL(092)926-4597

11. 鎌田 正輝 (建設)

勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通2-3-3
精巧測量設備(株)福岡支店
TEL(092)734-2161 FAX(092)734-2171

12. 野村 利則 (情報工学)

勤務先 〒802 北九州市小倉北区中島2-1-1
東陶情報システム(株)
TEL(093)951-2390 FAX(093)952-3364

13. 代本 丈春 (電気電子)

勤務先 〒804 北九州市戸畠区大字中原
46-59 (株)日鉄エレックス
(新日鉄機械プラント事業部駐在)
TEL(093)872-6992 FAX(093)872-6885
<次ページにつづく>

14. 太田 賴敏 (農業)
勤務先 〒890 鹿児島市新栄町31-14
アジアテック(株)
TEL(0992)50-7700 FAX(0992)53-8269
15. 上野 篤秀、上野 光夫、小瀬 司、
長浜 博、山本 茂教 (建設)
勤務先 〒890 鹿児島市田上8-24-21
(株)新日本技術コンサルタント
TEL(0992)81-9143 FAX(0992)81-2417
16. 大内 光徳 (建設)
連絡先 〒742 山口県柳井市柳井1262
琴風住宅7-303 TEL(0820)23-5436
勤務先 井森アーステック(株)
17. 平原 淳次 (建設)
連絡先 〒800 北九州市門司区梅の木6-15
TEL(093)372-5885
勤務先 〒812 福岡市中央区古門戸町1-1
日刊工業ビル (株)五省コンサルタント設営部
TEL(092)281-4210 FAX(092)281-4274
18. 和智 鉄也 (建設)
連絡先 〒810 福岡市中央区鳥飼1-4-58
-801 トカラグランドマンション TEL(092)716-1222
19. 岳尾 弘洋 (建設)
連絡先 〒811-01 福岡県柏原郡新宮町
湊坂5-82 TEL(092)962-3228
20. 堀田 源治 (機械)
連絡先 〒277 千葉県柏市明原2-9-1
メゾン柏602 TEL(0471)47-3528
21. 矢野友一郎 (建設)
連絡先 〒816 春日市小倉4-118
TEL FAX (092)592-3637
22. 犬東 洋志 (建設)
連絡先 〒850 長崎市玉原町2-41
TEL(0958)21-1539

-受付順、敬称略- <会員ニュースおわり>

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会
員会社の紹介など、技術的なことは勿論
会員の受賞などのニュースもお願いしま
す。積極的な皆さんの投稿をお待ちして
おります。(20字×10行=200字詰め原稿用紙
2~3枚程度-用紙は事務局にて目安
に、支部事務局宛てご送付下さい。)

編集後記

この1年は、阪神大震災、オーム真理教等
恐ろしい出来事。景気も相変わらず低迷。
仏・中の核実験。……嫌なことばかり。
・福岡ユニバーシアード開催、ボスニア・ヘ
ルツェゴビナ和平合意などはあったが…。
・来年は“ねずみ”どし、“大山鳴動”などは
なしで、明るく楽しい年にしたいもの。(小)

発行：(株)日本技術士会・九州支部

九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル402

☎ (092) 771-9534

FAX (092) 731-8274

編集：九州支部・総務委員会

◇会誌“技術士”最近号の主要目次

☆10月号

- 卷頭言
- 就任のご挨拶 /浦野 休興
- 提言 技術士の社会的地位のために /本田 尚士
- 研修のページ (58)
石炭液化技術について /須賀田正泰

☆11月号

- 卷頭言
- 技術に根ざした安全を /高田 勇
- 研修のページ (59)
PHS用水晶デバイスの動向と解説 /岡野庄太郎

☆12月号

- 卷頭言
- 新幹線の建設費 /廣田 良輔
- 私の技術士業務 (55)
私の経歴と業務 /服部 洋